

どこにいるかな？ 探そう！

気になるいきものたち



なかなか出会えないレアな生き物、
市内での分布状況に注目したい生き物、
特定外来生物など、「気になる」生き物を集めた企画です。
今年もたくさんの情報をお寄せいただき、ありがとうございました。
また、今年も独自に気になる外来植物を調査した方からご報告を
いただきましたので、番外編として掲載いたしました。
引き続きこれらの生き物たちを気にかけていただけますと幸いです。

発見報告のあった
メッシュは、
地図上の該当箇所に
ピンとメッシュコードで
示してあります。



ホトギス

報告数
22メッシュ

観察適期：5月～10月

5月下旬頃渡ってくる夏鳥。

カッコウの仲間、ウグイスなどに托卵
(自分の産んだ卵を他の個体に育てさせる
こと)する習性がある。

鳴き声による確認がしやすい鳥。平野部で
どのような分布があるか注目したい種。

調査結果・コメント

河南地域からの生息確認はほとんど無く、河北地域から多くの生息情報が寄せられました。これは樹林帯でえさを採るホトギスの特徴を示すもので、山林の多い名草地区や田島地区、小俣地区等からの確認情報が増えるかもしれません。





ミゾコウジュ

報告数
8メッシュ



観察適期：(花) 5月～6月

環境省 準絶滅危惧種。市内数か所で確認できる。

シソ科の越年草で、5～6月に淡紫色の小さな唇形花(唇のような形をした花)をつける。この先どのメッシュで増え、また減っているか注目したい種。



調査結果・コメント

報告数が昨年度より4メッシュ増え、8メッシュになりました。とても嬉しいことです。田のあぜ道や日当たりの良い、やや湿った土手の斜面などが見つけやすいと思います。足利市の生育数は県内で最も多いかもしれませんが、その理由が私にはわかりませんので調べてみたいと思っております。貴重な植物ですので、保護していく上からも生育環境を調べることは大切だと思っております。



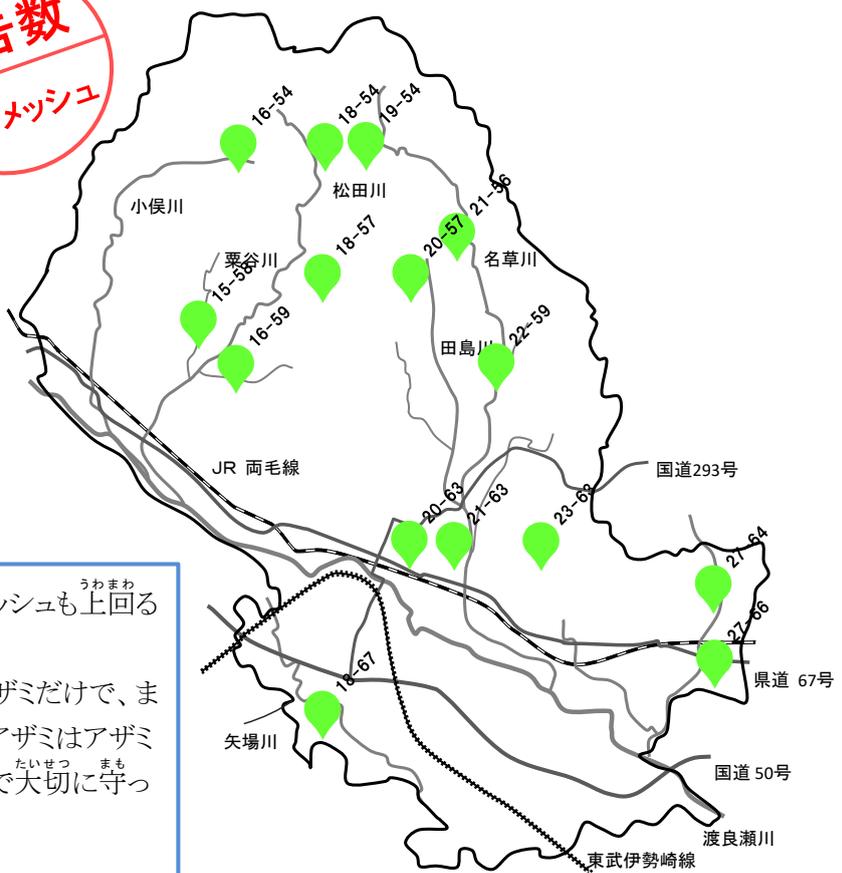
ノアザミ

報告数
15メッシュ

観察適期：(花) 5月～6月

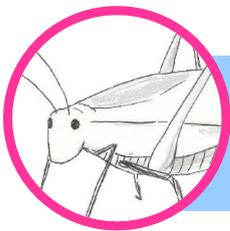
花が晩春から夏(5～6月)にかけて咲き、総苞(花の下の緑色になっている部分)に触るとネバネバしている点の特徴。

アザミは種類が多いが、この2つの大きな特徴があるので誰でも判別ができる。市内の分布状況に注目したい種。



調査結果・コメント

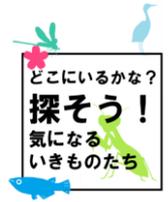
今年度は15メッシュで確認でき、前年度を6メッシュも上回る良い結果でした。種が多いアザミの中で、春に咲くのはこのノアザミだけで、また総苞が粘るのもこのアザミだけだそうです。ノアザミはアザミ類の中でも最も多く見かけるきれいな花ですので大切に守っていきたいと思います。



クツワムシ

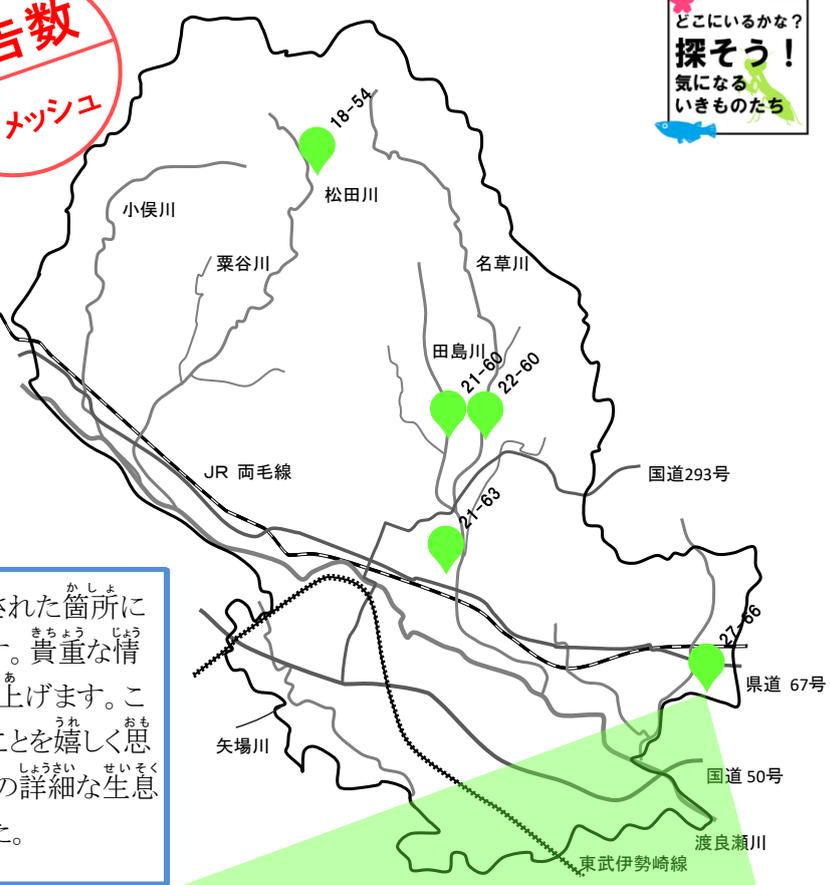
報告数

5マッシュ



観察適期：8月～秋

激レア昆虫。かつては河原にたくさんいたが、クツワムシが好む草地在なくなり数が激減した。令和元年度に市内で数年ぶりに生息が確認された。翅の先まで50mmくらいある大きな虫で、ガチャガチャとたいへん大きな声で鳴く。



調査結果・コメント

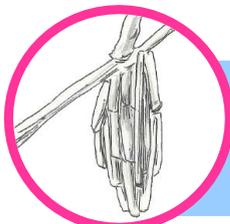
栃木県の絶滅危惧種となっており新たに報告された箇所については令和4年度に確認したいと考えています。貴重な情報を寄せてくださったレポーターさんに感謝申し上げます。このような大型昆虫が足利市に未だ生存していることを嬉しく思います。また、レポーターさんからの寺岡地区での詳細な生息情報については地図を掲載させていただきました。

クツワムシ 生息情報

クツワムシの鳴き声が聞こえる場所を  で示しました。

貴重な情報をお寄せいただきありがとうございました。





ミノムシ

報告数
19マッシュユ

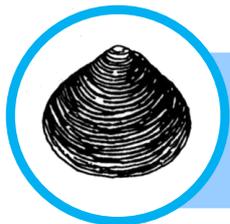
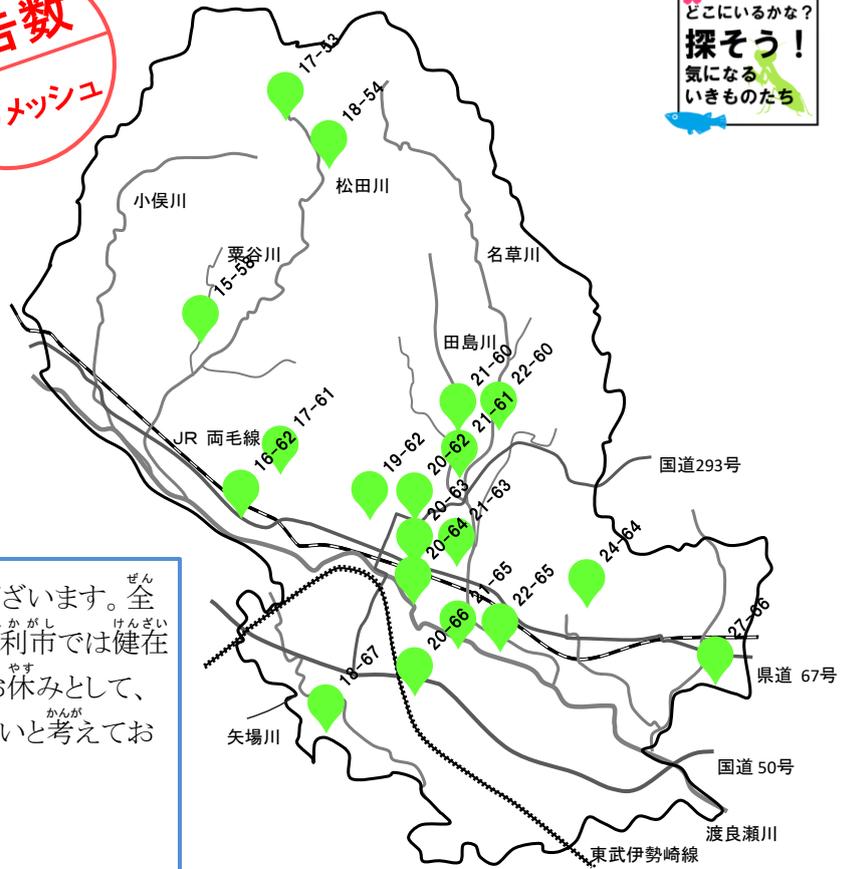


観察適期：年間

レア昆虫。かつてはたくさんいたが、最近見られなくなってしまった。木にぶら下がっており、中に蛾（ミノガ）の幼虫がいる。メスは一生のなかで過ごす。一年中おり、庭木などにもいる。

調査結果・コメント

昨年以上の情報を寄せていただきありがとうございます。全国的にミノムシは減少傾向にあるようですが、足利市では健在のようで安心しました。調査は今回でいったんお休みとして、令和4年度では新たな虫を見つけていただきたいと思います。



マシジミ

報告数
6マッシュユ

観察適期：5月～6月

淡水の河川の砂やどろの底にすむ二枚貝で食用になる。ふつう、シジミと呼んでいる。古くなると貝殻の頂上部分が白くはげ落ちる。マシジミとよく似たタイワンシジミ種群が侵入して分布を拡大しており、マシジミは絶滅の危機にある。

調査結果・コメント

発見場所が限定されてきている傾向は変わりません。観察方法の工夫や、積極的な観察が行われ、より専門的に調査にかかわっていただいていることがわかります。各地点ごとに種類がどうなっているかに注目して、調査していただいていることは、大変ありがたいです。タイワンシジミとの見分け方は、難しい（食用にしたものの残骸かの判断も含め）ので、経験が必要と思われます。いろいろ想像しながら調査することが楽しいと思います。





ミズスマシ

報告数

1メッシュ

観察適期：5月～9月

だ円形でつやのある黒色をした6mm程度の昆虫で、池や沼などのほか、流れの比較的弱い場所に住む。

水面を振動させると回転運動をはじめます。

冬は岸に上がって、枯草の間などで冬眠する。

見つけるのはとても難しい。

調査結果・コメント

今年、渡良瀬川流域で発見されました。絶滅の危機が指摘されているため今年もやはり見つけにくかったようです。しかし、ここ数年チャレンジしていただいた方々の観察のレベルは大変上がっていると思います。きれいな水、または豊富な水量がある場所を中心に、来年度もぜひ、調査にチャレンジしてください。



クビアカツヤカミキリ

報告数

65メッシュ

【特定外来生物】

中国・朝鮮半島・ベトナムなどが原産の外来生物。

幼虫が桜、ウメ等バラ科の樹木の内部を

食い荒らしフラスと呼ばれる木くずと糞が

混ざったものを排出する。被害を放置すると、

被害木が枯死してしまう恐れがあり、

駆除が必要な虫である。

調査結果・コメント

昨年度に比べ発見されたメッシュは11メッシュ少なくなりましたが、市内の山間部を除くほぼ全域で発見されている状況に変わりはありません。被害木も累計で1,000本以上となりました。我々も防除に尽力いたしますが、引き続き皆さんにも駆除にご協力いただけますようお願い申し上げます。



※特定外来生物のため、許可なく・生きたまま運ぶこと・飼育・保管すること・野外へ放つことが禁止されています。

※クビアカみつけ隊の皆さんからの報告、市民の方からの報告も合わせた結果です。

